

学校評価結果（2019年度）

I 自己評価

1. 本園の教育目標

発達に応じた楽しいあそびの中で、知・体・徳のバランスのとれた教育を展開し心身ともに元気で明るい、のびのびした子どもを育てることを目指す。

- ・心身ともに元気に明るい子どもを育てる。
- ・自ら進んで新しい発見をし、喜びを持ち工夫する子どもを育てる。
- ・自分や他人を大切にし、みんなと仲良く協力できる子どもを育てる。
- ・規則正しい生活ができ、自ら安全な行動のできる子どもを育てる。

2. 本年度の重点的に取り組む目標、計画

子どもたちが集団の中で様々な体験することにより生きる力を育む。
職員間で子ども達の情報を共有して一体となり一人一人に即した丁寧な保育を行う

研修などを積極的に行い職員の保育者としてのプロ意識を高める

3. 評価項目の達成及び取組状況

保育内容	指導計画に基づき、概ね計画通りに保育並びに行事などを行うことが出来た。 年度末の休園により計画を変更する必要に迫られたが、無事子ども達を小学校へ送り出すことが出来、また進級させることが出来た。
子どもへの共通理解	職員会議等を通じ、日々子ども達の様子や成長についての話し合いを行い、職員全員で子ども達の共通理解を行い一体となって保育を行うことが出来た。
教育者としての資質の向上を図る	職員同士で日々保育内容について確認を行い、丁寧な保育の提供に努めた。 園内研修や公的な研修に積極的に参加し、保育者としての資質の向上に努めた。
安全面や施設面での取り組み	日々設備や施設の点検を実施し、都度改善を行った。また交通安全指導や避難訓練を行い災害時の対応への意識の向上を図った。 年度末のコロナウィルスの感染防止対策が急務となり、衛生面での見直しが必要となった。

4. 学校自己評価の総合的な評価結果

幼稚園として子どもたちに質の高い保育を提供できるよう努め、子どもたちの成長に即した保育を行うことが出来た。

環境面を整え幼児期に必要な体験や人との関わりを多く体験させることを通じて社会生活の基礎を培うことが出来た。

5. 今後の課題

コロナ禍における新しい生活様式が求められるなか、保育においても感染防止を意識した保育の提供が求められるが、幼児期の成長は友達との関わりを通して体験の中から得られるものが多く、成長面と安全面とのバランスを見極めながら保育を行うことが重要である。

II 学校関係者評価

幼稚園関係者の方々には主に行事を通して日頃の保育の成果を見て頂き適正に運営されているとともに、2019年度の自己評価についても適正であると認められた。

今後も子どもたちの健全な成長のためにより一層頑張ってもらいたいとの言葉を頂きました。